木と森を体験してみる日曜日

動画de広報

モクモクたいけん

12月9日（日）、木の駅事業の拠点となる桑野山貯木場において林業への理解を深める体験会「モクモクたいけん」が実施され、町内から4組の親子連れを含む24人が参加しました。

参加者はまずはじめに貯木場すぐ横の山へと入り、チェーンソーによる間伐作業を見学、事故防止のための安全確認や木を倒す方向の決め方などの説明を受けながら実際の作業を興味深そうに見ていました。

丸太切り体験では、ノコギリとチェーンソーを使いながら作業を体験、最初はチェーンソーの音に驚いていた子どもたちも保護者や木の駅かわねのメンバーと協力しながら挑戦していました。

その後は少ない燃料でもよく燃えるロケットストーブを作成。用意された材料で組み上げられたストーブは各家庭へと持ち帰りました。

今回参加した本川根小学校6年生の鈴木涼冴さんは、ロケットストーブ作りを振り返り「煙突をはめるのが難しかったけどうまく作れたのでよかった」と満足げな表情を浮かべました。

また、地名から参加した八木光隆さんは「林業の仕事に興味があり参加した。間伐作業の説明も丁寧でわかりやすく、安全確認も徹底して行っていると感じた。このようなことをもっと皆に知ってもらいたい」と感想を語りました。

立ち止まる、至福。

第8回 川根時間

11月23日（金・祝）、第8回となる「川根時間」が智満寺と茶茗舘の2会場で開催されました。

智満寺会場では、全国茶品評会の上位入賞茶を味わう「極みの間」と15の茶農家がこだわりの茶を振る舞う「匠の間」がそれぞれ長時間の順番待ちになるほどの人気となり、低温で抽出された川根茶を味わった来場者の口からは「なんだこれ、全然違う」といった驚きの言葉が漏れていました。

一方、茶茗舘会場では、釜炒り茶をグラスで味わう「TACHIKAMA」や、川根茶をワインのように提供する「ボトリングティー」といった新しいお茶のスタイルが提案されたほか、味や香りから品種を当てる「茶歌舞伎」体験など、お茶の楽しみ方を広げていく試みが見られました。

今年は天候にも恵まれたことから、過去最多となる341人が会場を訪れました。

静岡市清水区の女性2人組は「5市2町の情報紙を見て来てみたが、こんなに素晴らしい催しとは思わなかった。来年もまた来たい」と川根茶の深い魅力を堪能した様子で感想を語りました。

川根時間 KAWANE JIKAN